

実施要領別紙一覧

別紙 1：登録申請書類

様式 1：新技術情報提供システム（NETIS）申請書

様式 2：技術情報入力事項

別紙 2－1：公共工事等における新技術活用システム NETIS 掲載情報の変更・更新申請書

別紙 2－2：公共工事等における新技術活用システム NETIS 登録抹消願

別紙 3：試行調査の調査内容

別紙 4－1：活用効果調査表（発注者用）

別紙 4－2：活用効果調査表（施工者用）

別紙 5－1：公共工事などにおける新技術活用システム試行申請書

別紙 5－2：公共工事などにおける新技術活用システム試行希望調書

別紙 6：新技術活用計画書・実施報告書

別紙 7：具体的評価方法

別紙 8：事前審査結果・事後評価結果の公表への異議申立書

別紙 9：事後評価結果に関する不服申請書

別紙 10：公共工事等における新技術活用システム推奨技術等の取り扱いに関する同意書

別紙 11：公共工事等における新技術活用システム技術比較表の変更・更新・追加・削除申請書

新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書

平成 年 月 日

受付地整等

国土交通省

地方整備局長（北海道開発局長）

殿

ふりがな

会社名

法人印

ふりがな

代表者氏名

公印

所在地

電話

「公共工事等における新技術活用システム」の実施規約に同意の上、下記のとおり申請します。
なお、本申請技術は、NETIS 登録技術とは同一技術でないことを誓約します。

記

1. 技術名称 ※1 :
ふりがな ※1 :
(商標名) :

2. 担当窓口 : 氏名

会社名

所属

所在地

電話

FAX

E-mail

※1 : 技術名称は、その技術の内容及び特色が容易に理解できるものとしてください。
商標がある場合に記入してください。

(名称・分類)

1. 「新発見」	2. 「発見」	3. 「発見」	4. 「発見」	5. 「発見」	6. 「発見」	7. 「発見」	8. 「発見」	9. 「発見」	10. 「発見」
11. 「発見」	12. 「発見」	13. 「発見」	14. 「発見」	15. 「発見」	16. 「発見」	17. 「発見」	18. 「発見」	19. 「発見」	20. 「発見」

3

公共工事等における新技術活用システム
NETIS 掲載情報の変更・更新申請書

平成 年 月 日

国土交通省
____地方整備局長 / 北海道開発局長
殿

ふりがな
会社名

法人印

ふりがな
代表者氏名

公印

所在地

電話

NETIS 掲載情報の変更・更新について、下記のとおり申請します。

記

1. 技術名称 :

(商標名) :

NETIS 登録番号(既登録) :

2. 変更・更新内容 :

3. 担当窓口 : 氏名

会社名

所属

所在地

電話

FAX

4. 添付資料 :

公共工事等における新技術活用システム

NETIS 登録抹消願

平成 年 月 日

国土交通省
____地方整備局長 / 北海道開発局長
殿

ふ り が な
会 社 名

法人印

ふ り が な
代表者氏名

公 印

所 在 地

電 話

「公共工事等における新技術活用システム」における NETIS（新技術情報提供システム）に登録済みの
下記技術について、登録を抹消されたく申請します。

記

1. 技 術 名 称 :

(商 標 名) :

2. NETIS 登録番号 :

3. 理 由 :

4. 問 合 せ 先 : 氏 名

住 所

会社名

所 属

電 話

F A X

E-mail

試行調査の調査内容

試行調査表

様式Ⅲ-13

技術の名称	
開発会社名	
NETIS登録番号	
従来技術名称	

必要に応じて評価項目を追加してください。

評価項目			従来技術のコスト	申請技術のコスト	従来技術との比較	試行調査結果
大	中	小				
1. 経済性	イニシャルコスト					
	ランニングコスト					
	その他					
	トータルコスト					

評価項目			①現行基準値等	②申請技術について 実証により確認した 数値等	③従来技術との 比較	試行調査結果
大	中	小				
2. 安全性	構造					
	施工段階					
3. 品質・出来形	耐久性(物性)					
	耐久性(形状)					
	耐久性(機能)					
	材料					
4. 施工性	合理化					
	現場条件					
	適用範囲					
	自然条件					
	施工管理					
5. 周辺環境に 与える影響	社会環境					
	作業環境					

活用効果調査表（発注者用）

登録番号	TH-200004	- [A]
新技術名称	一般車両用軌道トンネル点検システム	
比較する従来技術	手書きスケッチとデジタル写真を利用した点検図書作成	
組織機関名	東北地方整備局	
部署・事務所名	総務部	
工事名	道路工事	
活用等の型		

新技術活用計画書：実施報告書 活用効果調査表（発注者用） 活用効果調査表（施工者用）

記入要領

1. 全ての調査項目について調査を行ってください。
- ただし、記入内容が評価に関係ないとした調査項目があれば「当該評価に関連しない項目である」にチェックして下さい。
- その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。
2. 調査項目毎に評価点をチェックして下さい（チェックの旨は下表の通り）。
- | 大幅に改善 | 改善 | 同等 | 悪化 | 大幅に悪化 |
|-------|----|----|----|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
- 【ポイント】

活用した技術者、従来技術に比べて「良化」を「同等」を「悪化」を判断して下さい。その位置が違っていても、その位置になっているものを上表を参照して関係しているところ、チェックして下さい。
3. 調査項目の追加が必要な場合はその他（自由記述）欄に記入して下さい。
4. 調査項目毎に「褒れていた点」「劣っていた点」をチェックして下さい（複数チェックすることも可能です）。
- チェックを入れた場合はその判定結果をコメント欄に記入して下さい。また、チェックを入れない場合についても、その理由をコメント欄に記入して下さい。
5. コメント欄には、**効果調査の理由を必ず記入して下さい**。
- また、効果調査の適用及び活用検討を上記の**調査事項等**を記入して下さい。
- 記入の際は、効果調査の適用や評価の観点で**調査した内容**と必ず整合を図ってください。
- 必ず記入して完結がないと評価できません。

発注課 総務部
記入者氏名 監督者
連絡先 (TEL)

経済性

効果調査

従来技術より劣る

同等

従来技術より優れる

○1

○2

○3

○4

○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント

全角1000文字以内。

試字チェック

凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

試字・読字チェックの結果をここに表示します

使っていた点

☐ 機械経費・製品量産・補和材料費が減少したため

☐ 作業人員が減少したため

☐ 仮設費が減少したため

☐ 竣工日数が短縮したため

☐ 施工量が予定数量より多かったため

☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

☐ 機械経費・製品量産・補和材料費が増加したため

☐ 作業人員が増加したため

☐ 仮設費が増加したため

☐ 竣工日数が延長したため

☐ 施工量が予定数量より少なかったため

☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

従来設備より劣る		同等		従来設備より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5	

●当該技術に関連しない項目である

コメント 最大1000文字以内。

認字チェック 凡例： 赤文字対象文字 | 修正候補

読字・読字チェックの結果をここに表示します

品質・出来形

勉強調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

●当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- ☐ 品質が向上したため
- ☐ 出来形・精度が向上したため
- ☐ 耐久性が向上する構造になったため
- ☐ 品質、出来形の管理項目が減少したため
- ☐ 品質、出来形の管理頻度が減少したため

劣っていた点

- ☐ 品質が低下したため
- ☐ 出来形・精度が低下したため
- ☐ 耐久性が劣る構造になったため
- ☐ 品質、出来形の管理項目が増加したため
- ☐ 品質、出来形の管理頻度が増加したため

安全性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

読字チェック

凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・読字チェックの結果をここに表示します

優れていた点

☐ 災害・被害等状況の危険性が減少したため
☐ 豪雨災害の危険性が減少したため
☐ 円滑・落下物災害の危険性が減少したため
☐ 作業環境(音が、騒音・振動作業等)が向上したため
☐ 危険物の取扱いが減少したため

劣っていた点

☐ 災害・被害等状況の危険性が増加したため
☐ 豪雨災害の危険性が増加したため
☐ 円滑・落下物災害の危険性が増加したため
☐ 作業環境(音が、騒音・振動作業等)が悪化したため
☐ 危険物の取扱いが増加したため

施工性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

読字チェック

凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・読字チェックの結果をここに表示します

優れていた点

☐ 現場での施工が減少したため
☐ 仮設工が減少したため
☐ 作業員の作業が容易になったため
☐ 熟練者に依存した作業が増加したため
☐ 施工の増減が向上したため
☐ 施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点

☐ 現場での施工が増加したため
☐ 仮設工が増加したため
☐ 作業員の作業が増えたため
☐ 熟練者に依存した作業が増加したため
☐ 施工の増減が低下したため
☐ 施工時の制約条件が増加したため

環境

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

読字チェック

凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・読字チェックの結果をここに表示します

優れていた点

☐ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため
☐ 騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため
☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため
☐ 産業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル性が向上したため)
☐ 省エネルギー・省資源化が向上したため

劣っていた点

☐ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が悪化したため
☐ 騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため
☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため
☐ 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル性が低下したため)
☐ 省エネルギー・省資源が低下したため

上記項目の他に評価事項がある場合は本項目にて評価を行ってください。優れていた点、劣っていた点はコメント欄へ具体的に記載して下さい。

その他

タイトル 全角20文字以内

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

読字チェック

凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・読字チェックの結果をここに表示します

8

その他

タイトル 全角20文字以内

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

※ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・誤字チェックの結果をここに表示します

総合的所見

NETIS掲載情報の「期待される効果」に対して、活用した結果はどうでしたか

受けていた所 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・誤字チェックの結果をここに表示します

受けていた所 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・誤字チェックの結果をここに表示します

受ける所 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・誤字チェックの結果をここに表示します

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

☐ 適切であった ☐ 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したためよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

☐ 今後も是非活用したい ☐ 活用を検討したい ☐ 場合によっては活用することもある ☐ 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・誤字チェックの結果をここに表示します

当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・誤字チェックの結果をここに表示します

活用効果調査表（施工者用）

登録番号

TH-200004

新技術名称

一般高圧電圧トンネル点検システム

比較する従来技術

手書きスケッチとデジタルカメラ写真を利用した点検調査作成

組織機関名

東北地方整備局

部署・事業所名

佐賀県

工事名

活用工事

活用等の期

建設省(国土交通省)・建設省(国土交通省)

建設省(国土交通省)・建設省(国土交通省)

建設省(国土交通省)・建設省(国土交通省)

記入要領

1. 全ての調査項目について調査を行って下さい。
ただし、記入者の評価に該当しない項目は「当該技術に該当しない項目である」にチェックして下さい。
その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。

2. 調査項目毎に評価点をチェックして下さい（チェックの目安は下表の通り）。

大幅に劣る	劣る	同等	優れる	大幅に優れる
1	2	3	4	5

【ポイント】

活用した新技術が、従来技術に比べて「優れる」を「同等」を「劣る」を「大幅に劣る」を「大幅に優れる」にチェックして下さい。
活用した新技術が、従来技術に比べて「優れる」を「同等」を「劣る」を「大幅に劣る」にチェックして下さい。

3. 調査項目の追加が必要な場合はその他（自由設定）欄に記入して下さい。

4. 調査項目毎に「優れていた点」「劣っていた点」をチェックして下さい（複数チェックすることも可能です）。
チェックを入れた場合はその理由をコメント欄に記入して下さい。また、チェックを入れた場合についても、その理由をコメント欄に記入して下さい。

5. コメント欄には、**効果調査の理由を必ず記入して下さい**。
また、当該技術を使用及び活用検討する上での**留意事項等**を記入して下さい。
記入内容は、効果調査の理由や評価の観点でチェックした内容と必ず整合を図って下さい。
必要に応じて定量的なコメントをお願いします。

会社名(所属)

佐賀県

記入者氏名

佐賀県

連絡先 (TEL)

経済性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3

●当該技術に該当しない項目である

コメント

全1000文字以内

試学・読学チェック

凡例：チェック対象文字 修正候補

試学・読学チェックの結果をここに表示します

優れていた点

☐ 機械的・製品・補助材料費が減少したため

☐ 作業人員が減少したため

☐ 仮設費が減少したため

☐ 施工日数が短縮したため

☐ 施工量が予定数量より多かったため

☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

☐ 機械的・製品・補助材料費が増加したため

☐ 作業人員が増加したため

☐ 仮設費が増加したため

☐ 施工日数が延長したため

☐ 施工量が予定数量より少なかったため

☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

工程

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3

●当該技術に該当しない項目である

コメント

全1000文字以内

試学・読学チェック

凡例：チェック対象文字 修正候補

試学・読学チェックの結果をここに表示します

優れていた点

☐ 施工日数が短縮したため

☐ 工程計画が読みやすくなったため

☐ 予定工程どおりに進捗したため

☐ 施工量が予定数量より多かったため

☐ 仮設費が減少したため

☐ 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

☐ 施工日数が延長したため

☐ 工程計画が読みやすくなったため

☐ 予定工程どおりに進捗しなかったため

☐ 施工量が予定数量より少なかったため

☐ 仮設費が増加したため

☐ 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

品質・出来形

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3

●当該技術に該当しない項目である

コメント

全1000文字以内

試学・読学チェック

凡例：チェック対象文字 修正候補

試学・読学チェックの結果をここに表示します

優れていた点

☐ 品質が向上したため

☐ 出来形・精度が向上したため

☐ 耐久度が向上する構造になったため

☐ 品質・出来形の管理項目が減少したため

劣っていた点

☐ 品質が低下したため

☐ 出来形・精度が低下したため

☐ 耐久度が劣る構造になったため

☐ 品質・出来形の管理項目が増加したため

☐ 品質・出来形の管理精度が増加したため

安全性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

読字チェック

凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

読字・読字チェックの結果をここに表示します

使っていた点

☐ 故障、転落事故の危険性が減少したため
☐ 雷害被害の危険性が減少したため
☐ 風害、落下物災害の危険性が減少したため
☐ 作業環境(暑がり・騒音・振動作業等)が向上したため
☐ 危険物の取扱いが減少したため

劣っていた点

☐ 故障、転落事故の危険性が増加したため
☐ 雷害被害の危険性が増加したため
☐ 風害、落下物災害の危険性が増加したため
☐ 作業環境(暑がり・騒音・振動作業等)が悪化したため
☐ 危険物の取扱いが増加したため

施工性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

読字チェック

凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

読字・読字チェックの結果をここに表示します

使っていた点

☐ 現場での施工が減少したため
☐ 仮設工が減少したため
☐ 作業量の作業が容易になったため
☐ 熟練者に依存した作業が減少したため
☐ 施工の機械化が向上したため
☐ 施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点

☐ 現場での施工が増加したため
☐ 仮設工が増加したため
☐ 作業量の作業が増えたため
☐ 熟練者に依存した作業が増加したため
☐ 施工の機械化が低下したため
☐ 施工時の制約条件が増加したため

環境

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

読字チェック

凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

読字・読字チェックの結果をここに表示します

使っていた点

☐ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため
☐ 騒音・振動・地震等作業環境が改善したため
☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため
☐ 産業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル性が向上したため)
☐ 省エネルギー・省資源化が向上したため

劣っていた点

☐ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が悪化したため
☐ 騒音・振動・地震等作業環境が悪化したため
☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため
☐ 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル性が低下したため)
☐ 省エネルギー・省資源化が低下したため

上記項目の他に評価事項がある場合は本項目にて評価を行って下さい。使っていた点、劣っていた点はコメント欄へ具体的に記載して下さい。

その他

タイトル 全角20文字以内

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

読字チェック

凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

読字・読字チェックの結果をここに表示します

11

その他

タイトル 全角20文字以内

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	○ 5

※当該技術に該当しない項目である

コメント 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

総合的所見

NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか

差れていた所 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

劣っていた所 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

改善する所 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

○適切であった ○適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

○今後も是非活用したい ○活用を検討したい ○場合によっては活用することもある ○技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、サイズ300×200画素のJPG形式またはPNG形式の画像ファイルを指定してください。

写真1	写真2	写真3
ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または ファイルを選択 選択されていません 登録済み写真名: ※画像サイズは2MBまでのものとさせていただきます。	ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または ファイルを選択 選択されていません 登録済み写真名: ※画像サイズは2MBまでのものとさせていただきます。	ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または ファイルを選択 選択されていません 登録済み写真名: ※画像サイズは2MBまでのものとさせていただきます。

申請書類
公共工事等における新技術活用システム
試行申請書

平成 年 月 日

国土交通省
 ____地方整備局長 / 北海道開発局長
 殿

会 社 名

法人印

代表者氏名

公 印

所 在 地

電 話

____地方整備局において NETIS 登録済みの新技術について、以下の内容に同意の上、下記のとおり申請します。

【NETIS における位置付け】

新技術の活用は、現場毎の条件の適合性等による判断に応じて設計・工事担当部署がそれぞれ行うものであり、評価結果及び申請情報に基づき当該技術の活用の実施が保証されるといった性格のものではありません。

【活用における費用負担について】

活用に当たり標準積算額を超える費用が生じた場合は、試行調査にかかる費用として負担いたします。

【試行調査・活用効果調査における費用負担について】

試行調査および活用効果調査については、調査にかかる費用を負担いたします。

記

①新技術名称

②NETIS 登録番号

③申請会社等

郵便番号

住所

会社名

部署

実務担当者

電話番号

FAX

E-Mail アドレス

公共工事等における新技術活用システム 試行希望調書

技術名称	新技術名称を記入						
会社名	会社名を記入						
記入者氏名	(通常、実務担当者とする)	記入年月日	平成	18	年	月	日

1. 試行を希望する工事の内容、条件および範囲について伺います。

(1) 主たる評価項目	様式2などに記載して頂いている技術の有用性のうち、試行において特に評価項目としたい内容について記入		
(2) 直轄事業への適用分野 (選択はいくつでも) [右記チェックボックスにより選択]	☐ 河川 ☐ ダム ☐ 砂防 ☐ 道路 ☐ 港湾 ☐ 建築 ☐ 電気 ☐ その他 上記で"その他"にチェックされた場合は、該当する「分野」を記入		
(3) 工種・工事の内容	様式2に記載された"分類1"で工事内容が判断出来る場合は"分類1"を記入 判断が困難な(希望を反映出来ない)場合は、具体的な"工事内容"を記入		
(4) 施工現場の条件	申請技術の適用範囲、有効性、評価項目などを考慮し、その条件を記入 ただし、条件の設定に際しては、様式-2の記載内容(適用条件等)と整合を図ること		
(5) 試行規模 の範囲	上限値	貴社の費用負担、技術の施工能力、国交省発注における常識的な施工規模、などから勘案した施工数量の上限値	
	下限値	試行調査において評価を行うのに妥当なデータを取得できる規模、コスト等を考慮した規模などから勘案した施工数量の下限値	
(6) 対応可能地域(国交省管轄) (選択はいくつでも) [右記チェックボックスにより選択]	☐ 北海道開発局 ☐ 東北地整 ☐ 関東地整 ☐ 北陸地整 ☐ 中部地整 ☐ 近畿地整 ☐ 中国地整 ☐ 四国地整 ☐ 九州地整 ☐ 沖縄総合事務局 その他(上記に該当しない範囲設定や、選択地域の内に対応出来ない場所)		
(7) その他の条件	上記以外で試行に際しての特筆すべき条件を記入		

2. 上記1. の工事において予想される不具合とその対応について伺います。(予想される不具合を全て記載)

(1) 工事中において予想される不具合とその対応	
① 予想される不具合	申請技術の適用期間中(施工中・調査中・試験中)において発生が考えられる不具合を記入
② 代替手段について	①の不具合により申請技術での施工が困難となった場合、申請技術以外での代替手段を記入
③ やり直しに要する時間	②の代替手段を実施するにあたっての、おおよその時間、日数を記入
④ 社会的影響など	上記の不具合により考えられる影響などを記入
(2) 工事完了後に予想される不具合とその対応	
① 予想される不具合	申請技術の適用期間後(施工後・調査後・試験後)において発生が考えられる不具合を記入
② 代替手段について	①の不具合に対処するために、申請技術以外で考えられる代替手段を記入
③ やり直しに要する時間	②の代替手段を実施するにあたっての、おおよその時間、日数を記入
④ 社会的影響など	上記の不具合により考えられる影響などを記入

3. 上記1(5)試行規模の範囲において、申請技術と従来技術による分割施工の可否について伺います。	
(1)試行しようとする申請技術と従来技術等とは分割しての施工が可能か [下記ラジオボタンにより選択]	
☒ 不可・困難・・・下記(2)にその理由を記入	☐ 可能・・・下記(2)に分割施工時の条件を記入
(2)分割して施工する場合の条件等(または、分割施工出来ない理由)	
分割することによる施工条件や追加して施工しなければならない作業などについて記入	
4. 申請技術を試行する際における貴社の費用負担の考え方について伺います。	
(1)試行工事における申請者の費用負担(官積額を超える部分)の上限額	
具体的な金額または費用負担の考え方について記入	
(2)試行調査における申請者の費用負担(申請者で準備する調査機材及び人員調達など)の上限額	
(1)に含まれている場合はその旨を、含まれない場合は(1)同様に記入	
(3)申請技術に伴い不具合が発生した場合、手直し等に要する費用確保の考え方	
(1)に含まれている場合はその旨を、含まれない場合はその考え方を記入	
5. その他	
(1)本試行および特許・実用新案の内容について共同研究開発者からの同意。その他、係争に関わる事項について伺います。	
共同研究開発者が申請技術を本調査の記載内容のとおり、試行を希望することについて同意済みである旨を記入 類似技術等の開発者などとの間に係争中または係争が予測される場合は内容を記入	
(2)その他	
その他、試行をするうえで特筆すべき事項について記入	

NETIS

新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索

新技術の登録・更新

新技術の登録・更新

新技術の登録・更新

新技術の登録・更新

新技術の登録・更新

新技術の登録・更新

新技術の登録・更新

検索

登録

更新

削除

※120秒間でタイムアウトします。作成の確定、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー（一時保存）から行えます。

登録番号

THH-200004

新技術名称

一部車両搭載型トンネル点検システム

比較する従来技術

手書きスケッチとデジタルカメラ等を用いた点検調査作成

組織機関名

東北地方整備局

部署・事務所名

総務部

工事名

道路工事

活用等の型

新技術活用促進・実用化調査

活用促進調査表（施工前用）

活用促進調査表（施工後用）

計画書作成段階においては、黄色で塗りつぶした項目（「施工概要」～「作業環境」）については記載の必要はありません。

作成日

受注者名

受注者

契約額(円)

工事期間

新技術施工期間

施工場所

施工概要

内容

※1200文字以内

読字チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

読字・読字チェックの結果をここに表示します

対象数量

※127文字以内

読字チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

読字・読字チェックの結果をここに表示します

新技術使用箇所

※127文字以内

読字チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

読字・読字チェックの結果をここに表示します

施工（活用）概要資料 ※活用概要データを添付してください。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルを選択

選択されています

※ファイルは20MBまでのものとしてください。

現場施工条件

※1200文字以内

●現場条件

●周辺状況（病院、学校、敷地の有無等）

●自然環境（騒音、振動、水質等）

読字チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

読字・読字チェックの結果をここに表示します

読字チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

読字・読字チェックの結果をここに表示します

読字チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

読字・読字チェックの結果をここに表示します

障害

施工上で重大な障害や問題が生じましたか。

○無

○有

チェックを完了

障害の内容

※127文字以内

読字チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

読字・読字チェックの結果をここに表示します

作業環境

○陸上作業

○水上作業

○地下作業

○水中作業

○空所作業

チェックを完了

活用理由

※チェックボックスにチェックがない場合は、入力されたコメントは利用時に削除されます。

※チェックボックスにチェックがある場合は、コメント欄に入力してください。

経済性

工程

品質・出来形

安全性

施工性

環境

その他

その他

新技術の検索

新技術の登録・更新

チーム設定等の検索

マッチング

プライバシーポリシー

お問い合わせ

お問い合わせ・お問い合わせの検索

お問い合わせ・お問い合わせの検索

お問い合わせ・お問い合わせの検索

Copyright 2021, New Technology Information System. All Rights Reserved.

16

具体的評価方法

試行実証評価

1. 試行実証評価の手順

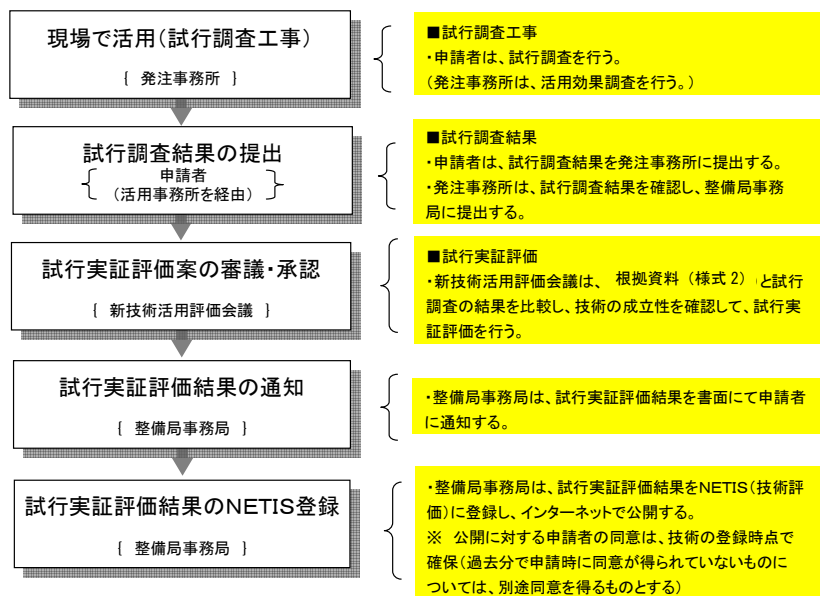


図6-1 試行実証評価のフロー

2. 試行実証評価の実施時期

現場で試行調査が行われ、試行調査結果が提出された段階で速やかに実施

3. 評価基準

表6-1 試行実証評価の評価基準

評価区分	評価基準
○	根拠資料(様式2)の「実証により確認した数値等」に比較して、同等またはそれ以上。
△	根拠資料(様式2)の「実証により確認した数値等」に達しないが、「現行基準値等」を満足する。
×	根拠資料(様式2)の「現行基準値等」(「現行基準値等」が設定されていない評価項目については、「実証により確認した数値等」)に達しない。
—	根拠資料(様式2)の「実証により確認した数値等」を確認できない。

注)「現行基準値等」が設定されていない評価項目については、評価区分の「△」を適用しない。

注)「×」が1つでもある場合には、技術として成立していない。

注)「×」がない場合における「—」の取扱いについては、新技術活用評価会議による。

活用効果評価

1. 活用効果評価の手順

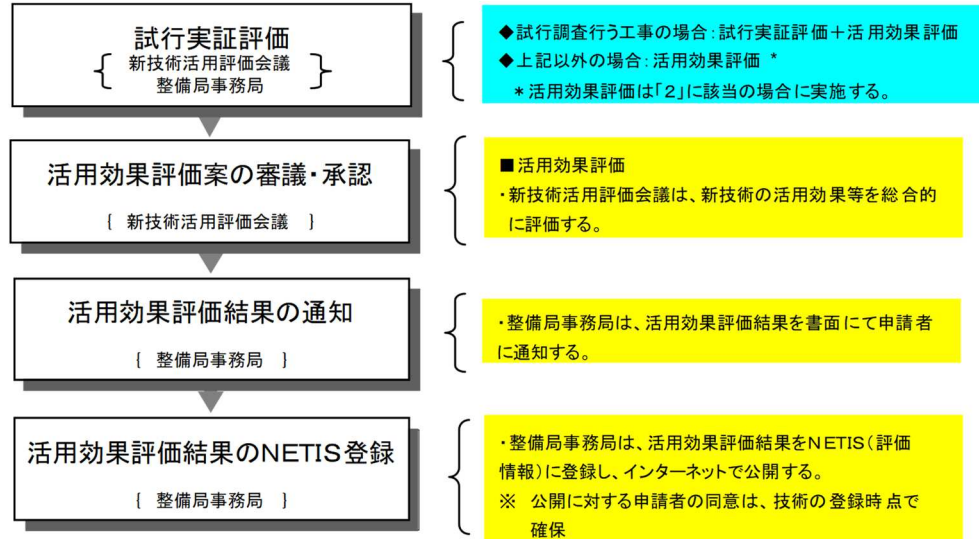


図6－2 活用効果評価の内容と流れ

2. 活用効果評価の実施時期

試行申請型、フィールド提供型及びテーマ設定型（技術公募）の場合は、以下のいずれかに該当する場合に、速やかに実施する。

<1回目>

- ・試行調査及び活用効果調査を実施した場合。

<2回目以降>

- ・活用効果調査の件数が累積で5件以上ある場合。

（3回目以降は発注者指定型及び施工者希望型の<2回目以降>と同様とする。）

発注者指定型及び施工者希望型の場合は、以下のいずれかに該当する場合に、実施する。

<1回目>

- ・活用効果調査の件数が5件以上ある場合。

<2回目以降>

- ・活用効果評価の結果、継続調査等の対象となった新技术については、当該技術の前回の活用効果評価が行われた日から起算して1年以上経過し、新たな活用効果調査結果が10件以上蓄積した場合。
- ・追跡調査の活用効果評価は、前回の評価時に評価会議が定めた実施時期、必要件数に達した場合。
- ・評価会議において従来技術の変更が必要と判断され、その後新たな活用効果調査結果が10件以上蓄積した場合。

表6-2 活用効果評価の実施時期

活用の型	活用効果評価の回数	活用効果調査の件数	活用効果評価の実施時期
試行申請型 フィールド提供型	1 回目の活用効果評価	1 件以上	試行調査後、速やかに実施
テーマ設定型 (技術公募)	2 回目の活用効果評価	5 件以上 (累積)	速やかに実施

※3 回目以降は発注者指定型及び施工者希望型の＜2回目以降＞と同様とする。

活用の型	活用効果評価の回数	活用効果調査の件数	活用効果評価の実施時期
発注者指定型 施工者希望型	1 回目の活用効果評価	5 件以上	速やかに実施
	2 回目以降 の活用効果評価	10 件以上 (前回の活用効果評価から)	・活用効果評価の結果、継続調査等の対象となった新技術については、当該技術の前回の活用効果評価が行われた日から起算して1年以上経過し、新たな活用効果調査結果が10 件以上蓄積した場合速やかに実施 ・追跡調査の活用効果評価は、前回の評価時に評価会議が定めた実施時期、必要件数に達した場合速やかに実施 ・評価会議において従来技術の変更が必要と判断され、その後新たな活用効果調査結果が10 件以上蓄積した場合速やかに実施

※第三者機関の評価(技術審査証明書等)により成立性が確認されている場合は活用効果調査の件数が5件以上あるものと同等として扱い、活用効果調査の件数が1 件以上で、NETIS 申請者からの申請がある場合は、活用効果評価を実施できるものとする。

公共工事等における新技術活用システム

事前審査結果・事後評価結果の公表への異議申立書

平成 年 月 日

国土交通省

— 地方整備局長 / 北海道開発局長

殿

会 社 名

法人印

代表者氏名

公 印

所 在 地

電 話

事前審査結果・事後評価結果の公表について、実施要領に基づき、次のとおり異議申し立てをします。

登録技術名及び NETIS 登録番号	
事前審査結果・事後 評価結果の通知 年月日	
異議申立の内容	
異議申立の理由	
備 考	

〔作成日 H18.7.14〕

様式VI-4

公共工事等における新技術活用システム
事後評価結果に関する不服申請書

平成 年 月 日

国土交通省

—地方整備局長 / 北海道開発局長

殿

ふりがな
会 社 名

法人印

ふりがな
代表者氏名

公 印

所 在 地

電 話

事前審査結果・事後評価結果について、実施要領に基づき、次のとおり不服申請をします。

登録技術名及び NETIS 登録番号	
事前審査結果 ・事後評価結果への 要求書等に対する 回答通知年月日	
不服申請の内容	
不服申請の理由	
備 考	

〔作成日 H18.7.14 〕

公共工事等における新技術活用システム
推奨技術等の取り扱いに関する同意書

平成 年 月 日

新技術活用システム検討会議
事務局 御中

ふりがな
会 社 名
ふりがな
代表者氏名
所 在 地
電 話

法人印

公 印

推奨技術・準推奨技術に選定された下記技術の取り扱いについて、本様式の裏面に記載する「1. 推奨技術等の取り扱いについて」、及び「2. 免責事項等」に同意します。

記

1. 技術名称：
2. NETIS登録番号：

【裏面】

1. 推奨技術等の取り扱いについて

新技術活用システム検討会議（国土交通省）（以下、システム検討会議（本省）という）は、画期的な新技術に対する適正な評価を行い、公共工事等に関する技術の水準を一層高めるため、画期的な新技術を対象に「推奨技術」等の選定を行い、当該新技術の普及啓発や活用促進等を行うものとする。

（１）対象となる技術

選考対象技術のうち、選考要件に照らして推奨すべき技術としてシステム検討会議（本省）が選定するもの。選考の対象となる技術、選考要件は以下のとおり。

＜選考対象技術＞

NETIS 登録技術のうち活用効果評価が実施された技術であって、選考要件のいずれかに合致する画期的な技術として以下の者の推薦のある技術

- ① 評価会議（整備局等）が、「活用促進技術」等のうち、主として現場における改善効果、将来性等の観点から推薦する技術
- ② 関係研究機関又は第三者機関等が、主として技術の画期性等の観点から推薦する技術
- ③ その他システム検討会議（本省）の委員が推薦する技術

＜選考要件＞

- ① 当該技術の活用により、従来に比べ飛躍的な改善効果が発揮される
- ② 従来にはない先駆的な取り組みであり、将来、公共工事等における幅広い活用が期待される
- ③ 技術内容が画期的であり、将来的に飛躍的な活用効果の改善が期待できる
（現状では、当該技術の適用範囲において活用の効果が従来技術と同程度以上であることを最低要件とする。）
- ④ 技術内容が独創的である等、国際的に先端に行く技術又は先進諸国への技術展開が期待される技術である
- ⑤ 技術内容の応用性、適用性、普遍性が高く、国内の諸課題の解決への貢献に加えて、国際的な課題の解決など国際貢献に大きく資する
- ⑥ 一般化・標準化に向けて活用を促すべき技術である

（２）実施形態

システム検討会議（本省）は、申請情報、評価情報等に基づき、推奨すべき技術がある場合は、当該技術を「〇〇年度 推奨技術（新技術活用システム検討会議（国土交通省））」又は「〇〇年度 準推奨技術（新技術活用システム検討会議（国土交通省））」として選定する。

システム検討会議（本省）は、推奨技術等の選考を年１回実施する（該当なしも可）。

「推奨技術」、「準推奨技術」となった技術については、活用の実績等についてフォローアップを行う。

2. 免責事項等（案）

- ・「推奨技術」「準推奨技術」は、国土交通省の新技術活用システム検討会議において、画期的な新技術に対する評価を行うことにより、公共工

事等に関する技術の水準を高め、当該新技術の普及啓発や活用促進等を行うことを目的に選定するものであり、当該技術に関する証明、認証その他なんら技術の裏づけを行うものではないこと。

- ・公共事業等において、発注者等が「推奨技術」「準推奨技術」に選定された技術を採用するにあたっては、採用する者が現場毎の条件においての当該技術の適合性等を十分に検討して採用するものであり、「推奨技術」「準推奨技術」であることにより、当該技術の活用の実施が保証されるといった性格のものでないこと。
- ・直轄以外で「推奨技術」「準推奨技術」となった技術を採用した工事等において、事故、不具合等が生じた場合にあっては、新技術活用システム検討会議ならびに国土交通省は何らの責任を有しないこと。
- ・「推奨技術」「準推奨技術」となった技術が、次のいずれかに該当する場合、「公共工事等における新技術活用システム」実施要領 3.5.2 に基づき、「推奨技術」「準推奨技術」の選定を過去に遡り取り消されること。

- ① 当該技術が、実施要領に定める「3.2.8 NETIS 掲載情報の提供の中止等」に該当すると整備局等が確認したとき
- ② NETIS 申請者が提出された同意書等に違反したとき
- ③ その他、システム検討会議（本省）が「推奨技術」「準推奨技術」として相応しくないと判断したとき

この場合、システム検討会議（本省）事務局は、選定が取り消された旨を当該技術の NETIS 申請者に通知するものとする。

NETIS 申請者は、通知後、「〇〇年度 推奨技術（新技術活用システム検討会議（国土交通省））」又は「〇〇年度 準推奨技術（新技術活用システム検討会議（国土交通省））」という名称を使用してはならず、これに違反して生じた問題については、NETIS 申請者がすべての責を負うものとする。

また、システム検討会議（本省）事務局は、NETIS（評価情報）に登録されている推奨技術としての記載を削除するものとする。

上記の①、②、③について疑義があるとき又は当該技術に関して法律上の係争が生じたときは、システム検討会議（本省）又はシステム検討会議（本省）事務局は、NETIS 申請者に対して事実関係等について確認できるものとし、システム検討会議（本省）は、その疑義又は係争が解消するまでの間、NETIS 申請者による「推奨技術」「準推奨技術」の名称の使用の中止、NETIS（評価情報）に登録されている推奨技術としての記載の中止等の措置を講じるものとする。

ただし、NETIS 申請者から疑義の解消の根拠となる資料や係争が終結し問題が解消した根拠となる資料が提出され、システム検討会議（本省）が認めた場合は、上記の措置を解除するものとする。

公共工事等における新技術活用システム
技術比較表の変更・更新・追加・削除申請書

令和 年 月 日

国土交通省
____地方整備局長 / 北海道開発局長
殿

ふりがな
会社名

法人印

ふりがな
代表者氏名

公 印

所 在 地

電 話

技術比較表の変更・更新・追加・削除について、下記のとおり申請します。

記

1. 技術名称：
(商標名)：

NETIS 登録番号：

※申請時点で NETIS の掲載期限が終了している場合は、掲載時の NETIS 登録番号を記載して下さい。

2. 技術比較表の技術募集テーマ名：

3. 変更・更新・追加・削除理由及び内容：

※実施要領 3.3.3.7 テーマ設定型（技術公募）（４）手続き 6）技術比較表の変更・更新に規定する該当項目（イ、ロ、ニ）、変更・更新・追加・削除の理由及び内容を記載して下さい。

4. 担 当 窓 口：ふりがな
氏 名

会社名

所 属

所在地

電 話

F A X